

タイトル：漢字字体規範史の研究（平成 20 年度第 1 回研究会）

日時：平成 20 年 5 月 19 日（月曜日）午前 10 時 30 分より午後 1 時

場所：本郷サテライト 7F 会議室

報告：

1) 豊島正之(AA 研所員)

「HNG データベースの現状」

2) 當山日出夫(立命館大学 GCOE 研所員)

「金沢文庫本白氏文集「長恨歌」と HNG データベース」

3) 岡墻裕剛(AA 研共同研所員・北海道大学大学院)・高木唯(AA 研共同研所員・北海道大学大学院)・石塚晴通(AA 研共同研所員・北海道大学大学名誉教授・プロジェクト所外主査)

「HNG で見る字体数の変遷」

討論：

漢字字体規範史データベース(HNG)の問題点として、次を認めた。

- a) 収載文献が 62 点に増加し、既に一覧性に問題がある。
- b) 規範的文献と参考資料が混在しており、予備知識が無ければ見分けが付かない。
- c) これらの結果として、必ずしも字体規範史が大観出来ない。
- d) 字体規範史自体の明文化が未了。

討論の結果、b) に就ては、HNG データベースに「典拠文献フィルタ・異体フィルタ」を導入・実装する事とした。

フィルタの実装は、

- 1) 開成石経などの規範文献のみを選び出すスタティックなソースフィルタリング。
- 2) 「異体字率」による、自動フィルタリング。「規範的」の閾値は、概ね異体字率 1.0%。
- 3) 異体統合の on/off をユーザが指定する動的フィルタリング。

の三つを組み合わせを行い、ユーザ指定による動的な規範集約が可能な様にし、併せて a)を解決する。

又、ユーザ指定は、全て履歴データベースに記録して、異体観念のアンケート代わりに用いる事を試行する事とした。

実際の実装作業は ML にて進め、メンバー専用 HNG ページを別置して実装実験する事とした。

d) に就ては、各字に就ての異体調査を積み重ねた結果を、2009 年 3 月又は 9 月(締切)の「アジア・アフリカ言語文化研究」(ジャーナル)に投稿する等の形での明文化を目指す事とした。